

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年9月2日(2010.9.2)

【公開番号】特開2010-160493(P2010-160493A)

【公開日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【年通号数】公開・登録公報2010-029

【出願番号】特願2010-23578(P2010-23578)

【国際特許分類】

G 0 2 F 1/1343 (2006.01)

G 0 9 F 9/30 (2006.01)

G 0 9 G 3/36 (2006.01)

G 0 9 G 3/20 (2006.01)

G 0 2 F 1/1368 (2006.01)

G 0 2 F 1/133 (2006.01)

【 F I 】

G 0 2 F 1/1343

G 0 9 F 9/30 3 3 8

G 0 9 G 3/36

G 0 9 G 3/20 6 8 0 H

G 0 9 G 3/20 6 2 1 A

G 0 9 G 3/20 6 2 2 P

G 0 9 G 3/20 6 2 3 V

G 0 9 G 3/20 6 4 1 P

G 0 9 G 3/20 6 5 0 M

G 0 9 G 3/20 6 4 1 E

G 0 9 G 3/20 6 2 3 C

G 0 9 G 3/20 6 4 1 G

G 0 2 F 1/1368

G 0 2 F 1/133 5 5 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月12日(2010.7.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画素に中間調を表示する時に、該画素内の第 1 および第 2 副画素電極を異なる実効電位とすることで第 1 副画素電極に対応する第 1 輝度領域を第 2 副画素電極に対応する第 2 輝度領域よりも高輝度とする表示装置であって、

第 2 副画素電極は平面的に視て内周および外周を有する形状であって、かつ第 2 副画素電極の内周の内側に第 1 副画素電極が配されていることにより、中間調を表示する時に第 2 輝度領域が第 1 輝度領域を取り囲み、上記第 1 および第 2 輝度領域の間隙には最低輝度領域が形成されることを特徴とする表示装置。

【請求項 2】

上記間隙と重なるように遮光体が形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の表示装置。

## 【請求項 3】

上記遮光体は、ブラックマトリクス、第 1 副画素電極に接続されたトランジスタから引き出された配線、第 2 副画素電極に接続されたトランジスタから引き出された配線、トランジスタを介して第 1 副画素電極に接続された走査信号線、第 1 副画素電極と容量を形成する保持容量配線、および第 2 副画素電極と容量を形成する保持容量配線のいずれかの一部であることを特徴とする請求項 2 記載の表示装置。

## 【請求項 4】

上記走査信号線が画素中段において額縁状に引き回されていることを特徴とする請求項 3 に記載の表示装置。

## 【請求項 5】

上記保持容量配線が画素中段において額縁状に引き回されていることを特徴とする請求項 3 に記載の表示装置。

## 【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の表示装置を備えることを特徴とする液晶表示装置。

## 【請求項 7】

請求項 6 に記載の液晶表示装置と、テレビジョン放送を受信するチューナ部とを備えることを特徴とするテレビジョン受像機。